

## 4355 **ロングライフホールディング**

**北村 政美** (キタムラ マサミ)

ロングライフホールディング株式会社 代表取締役副社長

### **サービス拠点増設と企業買収で増収ながら先行費用で減益**

#### ◆グループ体制・各事業の概要

当社グループは、純粋持株会社ロングライフホールディング(株)の下に7社の事業会社があり、ホーム介護事業の日本ロングライフ(株)と在宅介護事業のエルケア(株)がである。(株)日本ビコーは千葉県下で20年以上介護事業を行っており、2月に全株式を取得した。エルケアの100%子会社であるカシダス(株)は、福祉用具のレンタルや介護用品の販売を行っている。ロングライフダイニング(株)は、施設や在宅事業所に向けた給食事業である。ロングライフ国際事業投資(株)は、昨年10月に設立したもので、中国青島で中国企業との間で設立した合弁会社に出資している。震災後の5月には、復興へのお手伝いとしてエルケア東北(株)という在宅介護の会社を仙台市に設立した。

日本ロングライフは、大阪エリアで有料老人ホーム7カ所、グループホーム3カ所、兵庫エリアは有料老人ホーム4カ所、グループホーム1カ所を運営する他、兵庫県住宅供給公社から2カ所のホーム運営を受託している。首都圏は有料老人ホームが3カ所ある。エルケアは関西圏を中心に展開しており、訪問入浴や訪問歯科など116サービスを行っている。首都圏では日本ビコーが25サービスを展開している。在宅介護サービスの拠点数は上記141サービスにエルケア東北を加えた合計142サービスとなる。以前はエルケアが取次店として福祉用品等のレンタル事業を行っていたが、効率性や収益性を考えてカシダスを設立し、自社メンテナンス工場を作って消毒や配送などを行うことにした。5月から本格的に流通を開始しており、11月にはエルケアが持っていた顧客を同社へ移管した。ロングライフダイニングは、今年10月に大阪市西淀川区にセントラルキッチンをオープンした。今後は、自社だけでなく他の会社への給食・配食事業やケータリング事業を行っていく。また、「柔らかおせち」といった新しい食品の開発や販売も行っている。当社は、制度改定のリスクの影響を抑えるために、介護保険に依存しないビジネスモデルを構築することを目指しており、2011年10月期末全社での介護保険依存率は50.4%、日本ロングライフ単独では22.6%となっている。

#### ◆2011年10月期決算の概要

当期は増収減益の結果に終わった。売上高は前期比16.7%増の94億42百万円、営業利益は49.1%減の2億2百万円、経常利益は45.7%減の2億円であった。中間期で発表した通り、第2四半期に1億85百万円の減損損失を計上した結果、1億51百万円の当期純損失となった。売上高については、エルケアが、拠点30カ所の増設に伴って2億39百万円増加した。日本ビコーは、従来の売上に加えて、当社グループ入りした後千葉県下および都内10カ所に新規出店したため、増収効果は9億97百万円となった。ロングライフダイニングも外部へのケータリング等が増加した結果1億32百万円増加した。営業利益については、エルケアが新規出店の初期投資を当期中に回収できなかったことや、カシダスを設立するにあたり今までレンタルしていた福祉用具等を自社で購入する必要があったため初期投資や償却がかかったことが大幅な減益の要因となった。

総資産は前期末比で5億円増加し96億97百万円であった。営業活動キャッシュフローは56百万円の減少、

投資活動キャッシュフローは6億56百万円の減少、財務活動キャッシュフローは2億46百万円の増加となった。期末の現金及び現金同等物は9億3百万円である。10月末時点で日本ロングライフが所有する居室数は723室、入居室数は538室で、入居率は74.4%である。過去5年間の入居率の推移を見ると、ここ3年間は70~71%で停滞していたが、当期は2.6ポイント上昇した。また、入居者数は554名であり、9割以上が単身での入居で、残りは夫婦の入居である。有料老人ホームは自立、要支援、要介護1~2が多く、グループホームは要介護4~5が中心である。

## ◆2012年10月期と今後の取組み

日本ロングライフのホーム介護事業では、入居率の向上を優先させていたため、新設ホームの建設を過去数年行ってこなかったが、満室の老人ホームが4カ所生まれたこともあり、2012年10月期は2カ所のホームを新設することにした。その1つは、2012年6月にオープン予定で現在建設中の「ロングライフ苦楽園芦屋別邸」である。兵庫県の芦屋市には有名な高級住宅地である六麓荘があり、この苦楽園は、そこに隣接した西宮市にある。敷地は1,438㎡、延べ床面積は1,435㎡、居室の広さは25~42㎡で全35室の施設である。箱根の「ガラスの森美術館」をモチーフに、地域の緑を活かした高級感のある建物にした。現在ロングライフ芦屋は約60室であるが、100%の稼働率となっており、ウェイトिंगの顧客もこの半年で相当数増えてきたため、そのような顧客の入居が見込まれる。また、初めて京都エリアへの開設として、「ロングライフ京都嵐山」を2012年の10月にオープンする予定であり、これもすでに着工済みである。当社は、大阪府の高槻や水無瀬で有料老人ホームやグループホームを展開しているが、こちらへの入居者は京都市内からの人が多い。このため当社は、以前から京都の物件や土地を探していたが、今回、嵯峨野地区にある独立行政法人の国立宇多野病院が所有する病院隣接地を取得できた。全60室で、敷地面積3,864㎡、延べ床面積3,473㎡、居室の広さは24~78㎡である。京都の中でも嵯峨野は景観地区であるため、瓦葺きの純和風の建物が日本庭園の中庭を囲むような配置にした。以上の2ホームは、土地・建物とも自社で所有する。

また当社は、数年前から中国での事業展開を模索してきたが、昨年、ロングライフ国際事業投資が34%、残りを新華錦グループが出資して合併会社を青島に設立し、今年11月5日に有料老人ホームのオープンを迎えることができた。建物は27階建ての全161室であり、1~4階までは共用部分としてスポーツジムやプール等がある。併設のクリニックは青島で最も有力な市民病院の分室として開設し、カラオケルームや麻雀室も完備し、中国でも富裕層の顧客をターゲットにしている。新華錦グループは山東省でベスト10に入る企業集団であり、当社との合併会社は今後10年で100カ所のホームを開設することを検討している。第1号館のオープンと同時に2~3号館の土地取得にも動き始めている。なお、オープンセレモニーの様子はフジテレビのニュース番組で放映された。また、当社に約1年間密着取材して作ったドキュメンタリー番組も12月30日に放映予定である。これは、中国が日本と同じ高齢化率になると4億人の老人が生まれることになり、この問題を取り扱った番組である。

当社は、中国での展開と同時に、「日本のケアサービスを世界へ」というスローガンを掲げ、中国だけでなくインドネシア、台湾、ベトナムなどの東南アジア向けに日本の介護サービスを輸出したいと考えている。当社の海外でのビジネスモデルは、まず単独資本で進出するのではなく、地元の有力企業とタイアップして出店するというものである。海外進出にはリスク等が問題になるので、当社は不動産を海外では持たず、現地有力企業に土地を持ってもらい、当社はサービス提供会社を設立し、当社主導で運営していく。当社の大きな収入源はノウハウへの対価、現地運営会社への出資による収益還元である。中国事業のために中国人スタッフを3カ月間日本で研修を行ったが、これによって介護用語辞典などの整備も含め海外スタッフのための研修プログラムもかなり出来上がり、ノウハウを蓄積できた。また中国語や英語のできる職員を採用しているので、今後さらに積極的に取り組んでいきたい。

10月には(株)トータルサポート研究所という、沖縄県で有料老人ホームを運営している会社の株式15%を取得

し、資本・業務提携を締結した。同社は「美里の杜 カシータ」というブランドでホームを運営している。震災後、多くの高齢者から沖縄でショートステイをしたい、冬の間だけ暖かい沖縄で過ごしたいという問い合わせが寄せられているので、例えば、冬は沖縄、夏は北海道というように、当社と提携している会社との間で入居者が移動できるような、有料老人ホームとリゾートホテルを合わせたモデルを構築したいと考えている。

#### ◆2012年10月期の業績予想

売上高は前期比11.2%増の105億円、営業利益は97.7%増の4億円、経常利益は89.8%増の3億80百万円、当期純利益は1億40百万円を見込んでいる。設備投資は6億20百万円、減価償却は3億50百万円を計画している。2011年10月期は1株当たり2.5円を予定している。2012年10月期は3.5円、配当性向27.0%を予想している。2011年5月1日付で、株式を200分割したので、3.5円の配当金を分割前の株式に換算すると700円の配当となる。

また、2011年9月1日付で、現(株)商船三井の最高顧問であり、日本郵政公社の初代総裁を歴任した生田正治氏を特別顧問に迎えた。同氏は青島市長の経済顧問もしており、同氏の幅広い知識や経験を当社の企業運営に活かしていきたい。

#### ◆質疑応答◆

**営業利益において「その他」の94百万円が最も大きな減益幅になっているが、その内容は何か。**

ロングライフホールディングの収益が50百万円減少した。これは、利益状況に応じて各グループ会社から得ている経営指導料が減少したためである。また日本ビコーののれん償却が20百万円含まれている。

**来期業績予測でセグメント別の内訳はどうなっているか。**

売上高は、ロングライフ44億円、エルケア42億円、ロングライフダイニング7億70百万円、日本ビコー15億円、カシダス3億30百万円である。営業利益は、ロングライフ3億円、エルケア50百万円、ロングライフダイニング8百万円、日本ビコー35百万円、カシダス35百万円を見込んでいる。

(平成23年12月16日・東京)